

# 魅力

Part 2

## ひとときわ輝くパートナー

〜おらほのリンゴどさ行ぐ編〜

大田市場 東一東京青果



相馬村を出発。翌日、大田市場で荷下ろしされ、東一東京青果で



太田市場は屋根に覆われ、雨の日でも濡れずに  
卸売場から買受人のトラックまで届けられる

生産者が手塩にかけて育  
てた飛馬リンゴは、全国各  
地の市場に出荷されている。  
トラックを追いかけた企画  
「魅力part2」は、今回、  
番外編として飛馬リンゴが  
出荷された東京都にある日  
本最大規模の大田市場に足  
を運び密着取材した。



11月29日、日興運輸株式会社のトラックがJA  
「紅玉」と「むつ」が競りにかけられた。



競りにかけられる全国各地のリンゴがサンプルとして1ケースずつ並ぶ。その中でも唯一、相馬の「むつ」だけが未開封だった。

## 相馬は相馬の屋号として親しまれている

### そこには飛馬ブランドの信頼があった

11月29日、フルーツステーションで日興運輸㈱の大型トラックに積まれた飛馬リンゴは、翌日の早朝、既に東京都大田区にある大田市場に到着していた。日本最大規模を誇るこの大田市場は、青果部・水産部・花き部の3部門を有する総合市場であり、敷地面積は386,426平方メートルと広大だ。中でも、当JAの取引市場で東一として名が知れている東京青果株式会社は、取扱高2,085億円を誇るまさに日本一の中央卸売市場だ。

リンゴがサンプルとして1ケースずつ陳列台に乗せられ、集まった買参人はリンゴを品定めしている。数多くのリンゴが置かれている中で、当JAの水色の段ボールは一段と目立っていたのが印象的だ。

市場に着くとまず目に飛び込んだのが巨大な建物だ。さらに威勢のいい掛け声、そしてフォークリフトやターレットトラックが農産物の置かれた構内を縦横無尽に動き回る様子を圧倒させられる。少し歩くと、その一角に東一東京青果が見えた。そこには全国各地から集められたリンゴやブドウ、ミカンなど数多くの果実が並べられていた。

最も衝撃的だったのは「むつ」がセリにかけられた瞬間だった。通常は全てのサンプル箱は開封され品定めされるが、当JAの「むつ」だけは未開封のままセリにかけられていた。箱の中のリンゴを視ずして買参人がセリ落としていく様子はまさに圧巻だった。

競りの開始時間が近づくと、帽子をかぶった数多くの仲卸業者が集まりだし、その場はあつという間に買参人で溢れかえった。ひな壇形式の会場では、競りにかけられる各地の

競りの開始時間が近づくと、帽子をかぶった数多くの仲卸業者が集まりだし、その場はあつという間に買参人で溢れかえった。ひな壇形式の会場では、競りにかけられる各地の

その理由を東一東京青果 渡邊副部长に聞くと「それは、相馬の先人たちが、長年にわたって築き上げてきた信頼の証だ。昔から最高級品として扱われてきた相馬のむつは、綺麗な桃紅色であるとともに、形も良いことをみんなが分かっている。大きな信頼により、フタを閉じたままでも仲卸しの人たちは高値で手を挙げるのさ。」と教えてくれた。

JA組織による産地力は販売価格の優位性確保に大きく力を発揮していたことを実感。市場や消費者が「相馬」という産地を高く評価していた。

糖度・蜜入りは消費者に支持されやすい

産地力を支えているJAの存在が大きい  
小規模JAだからできること

災害や気象条件により、生産量は  
その年により変動するものの、ここ  
数年、ミカンをはじめ、ブドウや梨  
など果実全体を見ると、総じて生産  
量が落ち込んでいるのが現状だ。こ  
の時期、日本一の生産量を誇る青森  
県産リンゴは、卸売市場にとつて非  
常に重要な存在である。

東京都の台所を支えているだけ  
あって、中央卸売市場の中でも東一  
東京青果は別格であり、各産地とも  
選りすぐりの逸品しか出荷しない。  
リンゴにおいても上位等級品の「サ  
ンふじ」が取引の主体となる。黄色  
品種と比べて赤いリンゴは強みのあ  
る存在であり、特に「ふじ」は不動  
の地位であり「ふじ」に勝るものは  
ない。リンゴ産地は高齢化や労働力  
不足が深刻化し、手間のかからない



東京東一青果  
果実第一事業部 副部長  
渡邊 勝俊 氏

渡邊副部長は熱い情熱  
をもって、生産者の意見  
を消費者に伝えている

黄色品種を増加させている中で、消  
費者が求めるのはやはり赤くて美味  
しいリンゴだ。

各産地とも、糖度や蜜入りを保証  
したこだわりリンゴを増やしており、  
当JAでも蜜入りリンゴの「みつま  
るくん」や糖度14度以上を誇る「飛  
馬ふじ」が出荷を伸ばしている。

ただ「飛馬ふじ」の生産にはリス  
クを伴うが、JAが生産者と一体と  
なつて取り組む高度な栽培基準を、  
できるだけ多くの生産者に普及させ  
ることが生き残りの鍵になるだろう。  
さらに、JAの徹底した品質管理  
や企画力が「信頼」を生み出し、ブ  
ランド力が更にますますとつながる。  
これは小規模産地である当JAにし  
かできない強みである。

今回、大田市場に足を運んだこと  
で、先人たちが創り上げた飛馬リン  
ゴが絶大な支持を受けていることを  
実感した。リンゴに特化したJA相  
馬村だからこそ出来る栽培基準の高  
位平準化を活かし、消費者の飛馬ブ  
ランドに対する支持率を維持してい  
かなければならない。我々は地域一  
体となつて、市場の新たな要求に応え  
られる能力を兼ね備えているはずだ。



JA相馬のリンゴが競りにかけられると  
多くの仲卸人が手を挙げ、市場には威勢  
の良い掛け声が響いた

